

N 共に生きる豊かな 福祉社会のために ormalization

ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION



社会福祉法人

朝日新聞厚生文化事業団



<http://www.asahi-welfare.or.jp>

N 共に生きる豊かな 福祉社会のために ormalization



子ども、障害のある人、高齢者——それぞれのための福祉事業を活動の3本柱として、朝日新聞厚生文化事業団は新たな歩みを続けています。

子どもへの暴力(虐待)防止プロジェクト助成と児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金を、事業団創立80周年(2008年)の記念事業として継続して実施しています。ともに遺贈のご寄付を財源にした「子どもたちのこころに安心の芽を育てる」ためのキャンペーン事業です。このキャンペーンをもとに、児童養護施設や里親家庭で暮らしたことのある人たちを中心とする当事者グループの全国ネットワークを結成。彼らとともに、全国6地域の児童養護施設に暮らす高校生の交流キャンプも実施しました。

障害のある人のための事業では、事業団が精力的にかかわってきた自閉症支援のTEACCH(ティーチ)プログラムを日本に本格導入して20年余り。自閉症カンファレンスも11年には10回目を迎えます。また、高次脳機能障害への理解の広がりをめざして、講演会を東京、大阪、福岡、名古屋で開いています。

高齢者向けの事業として09年に東京と大阪で開いた「高齢者フォーラム」では、認知症を主題にしました。10年9月には「これからの中介のあり方」について探りました。高齢者施設への訪問プログラム「ゆうゆうビジット」も10年2月に関東地方でスタート、夏からは対象を全国に広げて展開しています。さらに、新たに高齢者虐待防止プロジェクトの助成事業も立ち上げ、募集を始めました。

大災害の被災者救援にも引き続き取り組んでおり、09年度は被害が甚大だったサモア・スマトラ島沖とハイチの地震で募金を呼びかけました。

「共に生きる豊かな福祉社会」の実現を掲げた私たちが、厳しい経済情勢の続くなかで感じるのは、「困難な立場にある人と共に歩む」必要性と、それに対する大きな期待です。ご寄付をはじめ、多くの皆様から寄せられたご支援に厚く感謝を申し上げるとともに、さらなるお力添えをお願いします。「共に歩もう」という、私たちの思い、皆様の思いを形にしていくために、ご協力ください。

2010年11月
朝日新聞厚生文化事業団

子どもの福祉

●子どもへの暴力防止プロジェクト助成

次代を担う子どもたちが暴力や虐待の被害に遭わず、安心して暮らせる社会を築くことを目指した事業です。2008～09年度で全国の41団体に計1億505万円を助成しました。3年目の10年度も21団体に総額4017万円の助成を決め、児童虐待防止推進月間の11月9日に贈呈式を行いました。



助成事業が元になった「子どもへの暴力防止フォーラム」も09年に続いて、10年10月30、31日に東京・有楽町朝日ホールで開催、「子どものこえに耳を傾けること～『子ども被害者学』のススメ」をテーマに、デービッド・フィンケルホー・米ニューハンプシャー大教授を講師に招きました=写真。

●児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

児童養護施設や里親家庭で生活しながら、大学などへの進学を希望する高校生らに、入学時に必要な入学金、施設設備費と支度金(上限合計100万円)を贈るものです。09年度までの2年の43人に加え、10年度は26人、総額1189万円の予定です。

●社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」

児童養護施設や里親家庭で暮らしたことのある人たちのための全国6グループと当事業団が、社会的養護の当事者グループ「こどもっと」を10年4月に結成し、活動を始めました。手始めに、全国6都府県の児童養護施設に暮らす高校生を対象にした「ピア・キャンプ」を9月18～20日の2泊3日、静岡県内で実施、約50人が参加しました=写真。



●朝日夏季保育大学

長野県諏訪市での朝日夏季保育大学は10年7月で57回目に。自閉症の人のための支援方法として開発され、障害のない子どもの生活にも役立つ「構造化」の重点講座や絵本作家の真珠まりこさんの講演などに保育士ら約500人が参加しました。

障害のある人の福祉

●自閉症カンファレンスNIPPON

国内最大の自閉症専門会議です。TEACCH(ティーチ)プログラムの第一人者、米国ノースカロライナ大学のゲーリー・メジボフ教授=写真右=を招いて2009年8月に東京・大妻女子大学、



10年8月に東京・早稲田大学で開き=写真左=、ともに約800人が参加しました。併せて、メジボフ教授の講演会「自閉症を正しく理解すること」を札幌、豊見城(沖縄県)、高松の各市で開催しました。また、「自閉症フォーラム」を10年12月25、26日に沖縄県名護市と那覇市で開催します。

●ジョブコーチ・ネットワーク会議

障害のある人たちの就労の橋渡しをするジョブコーチが全国から集う「JC-NET(ジョブコーチ・ネットワーク)会議」を東京・大妻女子大多摩キャンパスで毎年3月に開催しています。また、地域の要望に応えるための「JC-NETフォーラム」を09年に鳥取県米子市で、10年6月には埼玉県熊谷市で開きました。

●全国高校生の手話によるスピーチコンテスト

全国高校生の手話によるスピーチコンテストを8月に東京で秋篠宮妃殿下をお迎えして開催しています。手話の普及と福祉教育の推進が目的で、「手話の甲子園」として定着しています(写真是09年の第26回コンテスト1位の群馬県立藤岡北高校の森香裕さん=上=と、10年の第27回コンテスト1位の北海道室蘭栄高校の細川絢加さん=下)。



●高次脳機能障害を理解する講演会

交通事故や病気などの後遺症で生活上の困難を抱える、高次脳機能障害の人のための講演会を東京、大阪、福岡、名古屋で開催しました。また11年1月に東京、2月には大阪で、引き続いて講演会を予定しています。

●聖明・朝日盲大学生奨学金

視力障害の学生を対象とした国内初の奨学金制度として1969年に創設され、月額3万円を貸与しています。総貸与者は2010年度の42期生で191人になりました(写真は42期生の2人。中央は本間昭雄・聖明福祉協会理事長)。歴代貸与者の中には弁護士や大学教授、市議会議員、ピアニストなど、一線で活躍している人も少なくありません。



●車いすバスケットボール

朝日九州車いすバスケットボール選手権の第30回大会を北九州市で、第31回大会を沖縄で開催。また、九州車いすツインバスケットボール選手権の第21回大会を熊本で=写真=、第22回大会を大分県宇佐市で開きました。



●障害者歩くスキーの集い

第30回障害者歩くスキーの集いを10年1月に札幌で開き、131人が新雪の滑りを楽しみました=写真。



●朝日福祉ガイドブック

「精神障害者のホームヘルプサービス」

「地域でふつうに暮らすために」をテーマに精神障害の当事者や関係者から寄せられた豊富な事例を盛り込んで作成し、頒布中です=写真。B5判92ページ、800円。



高齢者の福祉

●高齢者虐待防止プロジェクト助成

高齢者への暴力・虐待の防止、予防や啓発、教育、ケアに取り組む、新しいプロジェクトを応援するため、新規事業として2010年11月に募集を始めました。高齢者への暴力防止に携わる、営利を目的としない民間の団体・グループが11年5月から1年間に実施する事業が対象で、助成総額は1000万円(1件の上限は100万円)。応募締め切りは11年1月18日(必着)。5月に発表と贈呈式を予定しています。



●高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」

特別養護老人ホームなど高齢者向け施設の入居者や利用者と、一流の音楽家や力士らとの交流をはかる企画です。10年2~3月に関東地方4カ所で、7月からは全国の10カ所に地域を広げて実施しています。



内容は、千住真理子さんのバイオリン・コンサート(写真上)、川畠成道さんのバイオリン・コンサート、おおたか静流さんと大友剛さんによるコンサート、日色ともゑさん(朗読)とマリオネットのコンサート(写真中)、高砂部屋の力士との交流とちゃんこなべ(写真下)です。



●高齢者フォーラム

09年には「ウイズ・エイジング～認知症になっても自分らしく生きたい」のテーマで、プロスキーヤーの三浦雄一郎さん、作家の落合恵子さんらを講師に東京と大阪で開きました。10年9月には東京と大阪で、デンマーク・バンクミケルセン記念財団理事長の千葉忠夫さん、在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク副会長の新田國夫さん、落合恵子さんらが日本の「これからの方々」を「幸福度世界No.1」のデンマークと比較しながら探りました=写真。



「21世紀の高齢者福祉を考える」朝日高齢者福祉セミナーも名古屋で開催しています。

●認知症のガイドブック

10年度は、本人と家族の立場にたった認知症についてのわかりやすいガイドブックの作成を進めています。11年3月に出版予定です。

福祉教育・福祉啓発推進

●環境福祉シンポジウム

2010年9月、東京で「踊り場の社会 問われる福祉」をテーマに開催。宇沢弘文・東京大名誉教授、広井良典・千葉大教授、小沢修司・京都府立大教授、炭谷茂・環境福祉学会副会長を講師に、地球環境にやさしく、持続可能な福祉社会のあり方を探りました=写真。



●対人サービス援助者のスキルアップ講座

障害のある人・高齢者の入所施設、支援センターの職員が、利用者とスムーズなコミュニケーションを取るために、10年2月に大阪で実施しました=写真。



●公開講座「自殺!? ちょっと待って!」

自殺防止のために福岡で毎年、開催しており、10年10月の公開講座では大野裕・慶應大教授が「うつとの上手なつきあい方」について講演、「深読み」や「自己批判」など、ストレスを受けやすい思考からの転換を呼びかけました。

医療と公衆衛生

●うつを考える講演会

エッセイ漫画「鬱(うつ)姫 なっちゃんの鬱鬱記」の作者、杉山奈津子さんの講演会を09年に大阪で、「みんなでうつを考える講演会」を精神科医の香山リカさんや当事者らを講師に10年11月に東京で開きました=写真。



●アサヒベビー相談室

都会の中で育児に悩む母親たちのための数少ない民間の相談室です。大阪の近鉄百貨店阿倍野店、西武百貨店高槻店=写真=、西武百貨店大津店で開設しており、09年度の利用は計約800人でした。



●生活習慣病市民公開講座

平成紫川会・小倉記念病院の医師らを講師に北九州市で毎年、実施しており、10年度は「大切な人が突然倒れた時、あなたは何ができますか?」など、5回を開催しています。

チャリティー事業

●朝日チャリティー美術展

2009年度は名古屋=写真=、大阪、東京で開催、画家、書家、各界著名人ら約2700人の方々から約3300点の作品をご寄贈いただきました。10年度も12月9~11日に名古屋・丸栄、23~25日に大阪・なんば高島屋で、11年3月4~7日に東京・松屋銀座で開きます。



●チャリティーの催し



09年度は東京で第59回メサイア演奏会(東京藝術大学協力)=写真左上=、10周年記念「親子で楽しむクリスマスコンサート」=写真左下=、大阪で第55回朝日推薦演奏会、第51回各派合同三曲演奏会=写真左中=、協贊能、第56回各流合同茶会=写真右下=を、兵庫県尼崎市で第57回洋舞合同祭=写真左下右=、名古屋で第55回歳末朝日チャリティー茶会を実施しました。最終回となつた朝日推薦演奏会を除き、10年度も11月から3月までに開催します。

このほか、チャリティー大茶会(茶道裏千家淡交会北九州支部主催)や杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会、宇井あきらとレ・ザマン・ド・ラ・シャンソンコンサート、三縄みどりリサイタル、彩季会チャリティーバザーなど、多数の催しが事業団後援で行われ、ご寄付が事業団の社会福祉事業に充てられています。



その他の事業

●西部朝日福祉助成金

2009年度は夏季に九州、山口の12団体に452万円を、冬季に福岡県内の3団体に45万円を、また10年度夏季に九州、沖縄、山口の15団体に492万円を贈りました。年末・年始に実施している「朝日ふれあい募金」などを財源にしています。

●サモア・スマトラ沖地震、ハイチ地震に救援募金

09年9月のサモア諸島とインドネシア・スマトラ島沖の地震で被災者救援募金を呼びかけ、計307件 299万7773円の救援金が寄せられ、日本赤十字社とN G O「国境なき医師団日本」に贈りました。10年1月の中米・ハイチ地震=写真=の募金は1544件、1917万7439円にのぼり、日本赤十字社と「国境なき医師団日本」「国連世界食糧計画W F P協会」「ワールド・ビジョン・ジャパン」に贈りました。



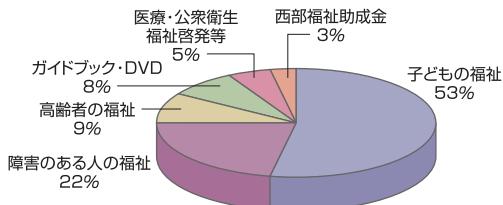
2011年3月までの主な事業日程

- | | | |
|------------|--------|-------------------------------|
| 12月 | 9~11日 | 朝日チャリティー美術展（名古屋・丸栄） |
| | 12日 | 歳末朝日チャリティー茶会（名古屋美術俱楽部） |
| | 23日 | 親子で楽しむクリスマスコンサート（東京・有楽町朝日ホール） |
| | 23~25日 | 朝日チャリティー美術展（大阪・なんば高島屋） |
| | 24日 | 芸大メサイア演奏会（東京文化会館） |
| | 25~26日 | 自閉症フォーラム（沖縄） |
| | 25~27日 | 洋舞合同祭（兵庫県尼崎市・アルカイックホール） |
| 1月 | 16日 | 障害者歩くスキーの集い（札幌） |
| | 22日 | 高次脳機能障害講演会（東京） |
| | 25日 | ゆうゆうビギット・高砂部屋の力士（群馬・高崎市） |
| 2月 | 26日 | 高次脳機能障害講演会（大阪） |
| 3月 | 4~7日 | 朝日チャリティー美術展（東京・松屋銀座） |
| | 12~13日 | JC-NET（ジョブコーチネットワーク）会議（東京） |
| | 21~22日 | 高校生進学応援金の集い（東京） |
| | 26~27日 | 各流合同茶会（大阪美術俱楽部） |
| | 29日 | ゆうゆうビギット・高砂部屋の力士（京都） |

ご寄付について

社会福祉事業を行うためのご寄付を受け付けています。朝日新聞厚生文化事業団の社会福祉事業は、皆様からのご寄付で実施されています。事業を指定した寄付も歓迎です。個人、法人ともに税法上の優遇措置があり、寄付者名・団体名は朝日新聞の地域面に掲載します(千円以上。紙上、匿名扱い可)。相続税が非課税となる遺贈・遺言のご相談も含め、当事業団へお問い合わせください。

皆様からのご寄付は以下のような事業に使われます
(2010年度事業活動予算)



主な寄付方法

- 郵便振替 00130・1・9166 加入者名=朝日新聞厚生文化事業団(通信欄に「寄付」と明記。領収書不要の場合も付記を。差し支えなければ寄付の動機も)。事業団が振込料金を負担する振替用紙をご請求ください。
- 銀行振り込み 「三井住友銀行新橋支店 普通 303668」(銀行振り込みの場合は事業団へ電話連絡をお願いします)
- 現金受付 朝日新聞本社内の事業団窓口(平日午前10時~午後6時)、朝日新聞総局など
- インターネット 事業団ホームページから電子マネー「ちょコム」募金

寄付金控除

- 個人の場合 寄付金から2千円を差し引いた金額が寄付者の年間所得から控除されます。限度額は年間所得の40%です。この優遇を受ける場合、確定申告をしていただく必要があります。
- 法人の場合 当事業団に対するご寄付は、その寄付金の合計金額と寄付金の損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。詳細はお近くの税務署、税理士にご確認ください。
- 相続税について 相続により取得した財産の一部または全部をご寄付された場合、ご寄付された財産について相続税は課税されません。また、遺贈については信託銀行と提携しています。

遺贈・遺言セミナーと遺贈パンフレット

遺贈の仕組みや遺言書がない場合のデメリットなどをわかりやすくまとめた小冊子(A5判、20ページ)を作りました。ご希望の方に無料でお送りします。事業団の各事務所に電話、ファックスなどでお気軽にご請求ください。

「老いじたく～あなたの財産を未来に」をテーマにした遺贈・遺言セミナーを、弁護士の中山二基子(ふきこ)さんらを講師に各地で開催しています。

朝日福祉ガイドブック・DVDのご案内

◆朝日福祉ガイドブック 【送料】1冊180円、2~3冊250円、4~5冊300円(6冊以上はお問い合わせください)

『精神障害者のホームヘルプサービス』 (800円)	精神障害のある人が自分の好きな街で暮らせるために、当事者の立場にたった支援ができるように、関係者の体験談や豊富な事例で解説
『自閉症の人たちを支援するということ』 (800円)	TEACCHプログラムの最高責任者、米ノースカロライナ大のメジボフ教授が自閉症とプログラムの内容を分かりやすく解説
『自閉症のひとたちへの援助システム』 (500円)	TEACCHプログラムの実践例を紹介し、日本でいかに生かすかを提案
『きみといっしょに』(500円)	全国のLD児の親がLD児への理解やより良い付き合い方をまとめた手引
ほかに『くるまいす-第3改訂版』(300円)、『新・川崎病がわかる本改訂増補版』(500円)、『小児ぜんそくは治る』(500円)など	

◆朝日福祉ガイドDVD

『親と教師のための自閉症の子どもの評価 生活スキル編』 全4巻セット価格18,000円 各巻4,800円(写真)
自閉症の人たちを正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、わかりやすく映像化しました。第1巻「評価の仕方」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。



『自閉症の子どもの自立課題』 全3巻セット価格 13,500円 各巻 4,800円	「自分はできるんだ」という感覚を養い、いろいろなことに取り組もうという意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しくやさしく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。
自閉症児の治療教育シリーズ (米国ノースカロライナ州のTEACCHプログラム) 各巻 3,000円	『自閉症児の明日のために TEACCHのねらいと考え方』(49分)、『親のためのTEACCHプログラム』(68分)、『教師のためのTEACCHプログラム』(67分)、『青年期・成人期のTEACCHプログラム』(56分)

お申し込み・お問い合わせ

ご希望の方は電話かFAX、電子メールで下記までお申し込みください(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記)。

朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD係

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 郵便振替 00130-1-9166

tel:03-5540-7446 fax:03-5565-1643

ホームページ(<http://www.asahi-welfare.or.jp/>)からもお申し込みができます。

ご寄付や事業についてのお問い合わせは

■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643

■大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島3-2-4
TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

■西部事務所

〒803-8586 北九州市小倉北区室町1-1-1
TEL093(563)1284 FAX093(563)1287

■名古屋事務所

〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3
TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>
E-mail mail@asahi-welfare.or.jp

※ご寄付で朝日新聞厚生文化事業団が振込料金を負担する「郵便振替用紙」をご希望の方はご請求ください。

【口座番号「00130-1-9166」】

※銀行振込の場合は事前にご連絡下さい。

【三井住友銀行新橋支店 普通「303668」】

※ご寄付は各地の朝日新聞本社・支社・総局でもお受けします。

※遺贈の仕組みや遺言書がない場合のデメリットなどをまとめた小冊子「遺贈」(A5判、20ページ)を、ご希望の方に無料でお送りします。

各事務所に電話、ファクスでお気軽にご請求ください。

「朝日の社会福祉 2009-2010年度の活動」

2010年11月発行

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団